

いきいきゼミナール

健康と医療についてゲストに語っていただくコーナーです

健康
と
医療

テーマ「気管支ぜんそく」(ゲスト)医療法人社団 大道内科・呼吸器科クリニック 大道 光秀 院長

一気管支ぜんそくとはどのような病気ですか。

気管支ぜんそくは、以前は小児ぜんそくが有名で、ぜいぜいする喘鳴(ぜんめい)や呼吸困難、せき込みなどを主な症状とする病気でした。はたから見るといかにも苦しそうで、大変そうな病気というイメージがありました。ところが最近ではその症状が大きく変わってきており、せきばかりで呼吸困難や喘鳴が少ないぜんそくが増えています。特に大人のぜんそくは

増加しており、呼吸困難や喘鳴はまったくなく、せきだけ続く「せきぜんそく」も増えています。症状は夜間や早朝に多く、日中には改善するので病院に受診した時にはただの風邪と診断される事も多いです。そのため症状からだけでは診断は難しく、肺機能検査をしないと分からない場合が多いです。肺機能検査といっても健康診断で行う肺機能検査とは違って、息を胸いっぱい吸って一気に吐き出し、1秒間にどれだけ吐けるか(これを1秒量と

言います)を調べ、1秒量が肺活量の何%かを調べます。それが70%以下ですと気管支が細いということになります。その後、気管支拡張剤を吸入して、1秒量がどれだけ改善するかをみます。

気管支ぜんそくは、気道が慢性的に炎症(粘膜の荒れ)を起こす病気です。何らかの遺伝的素因(体質)が関係していることは分かっていますが、根本原因はよく分かっていません。発作を引き起こすものを「誘因」といいますが、よくある誘因は風邪、アレルゲン(ペット、カビ、ダニ、花粉など)やたばこの煙、排気ガスなどです。よく風邪の後にぜんそくになったという人がいますが、これは間違いで、もともとぜんそく体質を持っている人が風邪をき

かけにぜんそくがあらわになったのです。

一気管支ぜんそくの治療について教えてください。

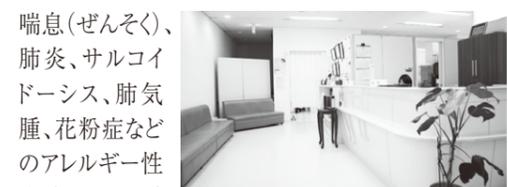
治療は吸入ステロイド薬を主体に使用してコントロールします。重要なことは発作が起きてから治療をするのではなく、普段から吸入ステロイド薬を中心とした治療を行い、気管支の炎症を改善して発作を起こさないようにすることです。ステロイドと聞くと怖い薬という印象があるかもしれませんが、吸入ステロイド薬は副作用が少なく、ぜんそくのコントロールに効果的です。ひどい発作の場合は、点滴や内服でステロイド薬を使用しますが、こちらは長く使用すると

副作用があるので好ましくありません。

現状ではぜんそくという病気は根治が難しいですが、吸入ステロイド薬を使うことで症状をコントロールすることはできますし、スポーツも普通にできます。吸入ステロイド薬を使っていなかったころはぜんそくで亡くなる患者さんが年間1万人くらいいましたが、吸入ステロイド薬を使うことで最近では2000人くらいまでに減っており、その多くは吸入ステロイドを使っていなかった患者さんです。ぜんそくの症状を放置しておくと気管支が細くなり、肺の機能が落ちて回復しづらくなります。こうなると症状が改善しづらくなり、日々の生活に支障がで

病院訪問

医療法人社団
大道内科・呼吸器科クリニック



▲受付



▲X線室

喘息(ぜんそく)、肺炎、サルコイドーシス、肺気腫、花粉症などのアレルギー性疾患などの呼吸器疾患を専門とするクリニック。風邪、咳、痰ほかの内科、特定疾患にも対応しています。ヘリカルCTや気管支鏡検査など、呼吸器専門の設備も充実しています。

住 所/札幌市中央区北3条西4丁目 日本生命札幌ビル3階
電話番号/011-233-8111
診察受付/月・火・木・金曜 9:00~12:30
14:00~18:00
水・土曜 9:00~12:30
休 診 日/日曜・祝日 院長/大道 光秀
http://www.ohmichi.or.jp/index.php

企画制作/北海道新聞社広告局